

第 197 回フォーラム開催報告

空間を演出し彩るアート

aaca Forum オンラインセミナーレポート

アートライフスタイリスト
アーティスト
株式会社エーアンドエム代表
藤田あかね



空間を意識したアートづくり。その作品は空間と溶け込みすぎず、尚且つおびやかすものでなく、装飾としての存在というよりその空間のスパイスとなり静かに何かを伝えるものでありたい。これは私たちがアート制作する際の信条の一つであります。私たちが常日頃気をつけていることを施工例とともにお伝えし、活動などのお話をさせていただきました。お申込み人数は 80 名。ズームにて 1 時間半を飽きの来ないよう緩急をつけたものにしました。

コミッションワークとは、委託制作のアートのことを言います。作家や、オーダーする側にとっても様々な委託制作に対する形があります。依頼をいただく以上、リクエストや制限がある中でどんなことが表現でき、生み出すことができるかは、その作家の力量や姿勢が試されるものになります。依頼側と、作家側との相互のコミュニケーションと信頼、そこから生まれる心地よい科学変化が美しく形成された時に唯一無二の空間が生まれます。

ヒアリングすべきことは、施設のコンセプトやターゲット、インテリア詳細にわたり多くあります。主軸となるキーがあればそれを元に私たちはスタディーを重ねていきます。その施設のブランドはどのようなものか、立地はどうか。その周りに見える景色はどうか。色々脳内でコラージュしていきながら、作家独自の視点で思考を深めていき、エスキスの制作をスタートします。実際に制作される際には、インテリアの要素を元に色作りも進めていきます。ここが実は重要で、空間のトーンに馴染ませるか、はたまたあえて引き立たせるものにするかは空間のコンセプトにより大きく変わってきます。デザイナーと、壁色などをアートに合わせ変更をしたりして空間を作り上げていきます。作品が空間に設置されると、パズルの最終ピースのようにピッタリとハマるその瞬間が訪れます。ご依頼時から納品まで、オーナー、デザイナー、そこを訪れる人々、と制作者の想いを行ったり来たりしながら常に私たちは自問自答を繰り返し制作を続けていきます。

私たちがで常日頃気をつけていることが 5 つ。

- ①作家独自のオリジナリティー。
- ②空間との程よい調和。
- ③施設のコンセプトの具現化。
- ④アートが装飾的にならないこと。
- ⑤アーティストの独りよがりにならないこと。

実はこの中の④と⑤の部分は絶妙なバランス感覚が必要です。個々のバランスを食い違おうと単なる飾りとなってしまい、メッセージが伝わらないものになってしまったり、また作品だけが空間を無視し突出したものになってしまい空間として圧迫感のあるものになってしまいます。絶妙にアートと空間が呼応し、佇む人に存在を静かに投げかけるものが私たちの理想です。

アートと街や人、場所をつなげるという活動も一つの大切なことで、発見と学びの場と捉えています。様々なアーティストと、不特定多数の人々がアートをきっかけにそれぞれの世界を広める思考はアートの存在や、見せ方を模索する柔軟な姿勢に繋がります。自身の展覧会などを通して表現の軸を見つめ発展させていく活動とは違うベクトルのようでありながら双方向で引き合い良い力になると感じます。

今回は、セミナー自体を 2 部構成にして、Q&A と、中継をはさみました。アトリエ中継は 2 回、また、街中アート活動の場に行って中継。セミナー中のアンケートは 3 回。また、終了後のアンケートも行いました。参加者は様々な職業の方が参加。アーティスト、ゼネコン設計、インテリアコーディネーター、建築家、WEB 制作者、主婦や、メーカーまで多岐にわたり、最も興味を持たれた内容としては制作過程の説明、チームで制作している所の二つが最も多く、普段見れていない部分に対するものでした。私たちもセミナーを通して自身の仕事を見直す良い機会となりました。



アートの研修（アトリエにて）



新宿高島屋、天井画制作風景



セミナー中、アトリエを実況中継で紹介



2020 年エドロックでのソーシャルディスタンスを意識したインスタレーション